

## COG2025 応募内容確認書

ID	49-25-1
自治体名	兵庫県高砂市
自治体提示地域課題	高砂市内の商業環境の活性化
チーム名	高砂市の夢学生2025
アイデア名	高砂『お買い物シェアタクシー』構想-既存資源でつなぐ移動と消費-
チーム属性	学生：学生（ ）だけで構成されたチーム
チームメンバー数	4
代表者	宮郷 良太
メンバー（公開）	宮郷 良太, 西田 光希, 福岡 絵梨花, 五十嵐 史織

### 【確認事項】

- < 応募のPDFファイル名と送付先 > 確認しました。
- < 応募内容の公開 > 確認しました。
- < 知的所有権・肖像権 > 確認しました。問題ありません。

## 冒頭ページ

### 基本情報

チーム名：高砂市の夢学生 2025

アイデア名：高砂『お買い物シェアタクシー』構想 -既存資源でつなぐ移動と消費-

該当する自治体名：兵庫県高砂市

自治体提示の地域課題：高砂市内の商業環境の活性化

# アイデアの全体像（What 2 ページ以内）

## 1-1. 提案するアイデアのあらまし（概要）

高砂市南東部の山陽電鉄高砂駅周辺は江戸期には北前船の寄港地でもあり、加古川での河川水運が盛んであった江戸期から昭和中期にかけて、東播地域の商業的中核をなす街であった。しかし、現在は商店街もいわゆるシャッター街と化しており、さらには昭和後期に開業したサンモールという大型商業施設も閉鎖された。これに伴い、自家用車を持たない高齢市民などの食品や日用品の購入が難しく南部ではいわゆるフードデザートに近い環境が生じており、食料品等を地域に供給する商業サービスの新規参入もあまり望めない状況にある。また、タクシー運転手は高齢化が進んでおり高齢者の乗客を老老介護している側面も見られる。

そこで我々は高砂市と共同し、既存商業サービス事業者と地域タクシー事業者という地域資源を活用すべく、現在すでに高齢者等に配布されているタクシー券の共同利用促進をもってフードデザート問題の解消、共同でショッピング活動に関与することによる高齢者コミュニティの結束強化、フレイル予防につなげ、これらによる高砂市での地域持続可能性の向上につなげることを目指す。また、現在、マックスバリュが実施を計画している訪問販売の市民の利用促進を図ることで、生鮮食料品販売店までの交通手段の提供と買い物の場の問題を同時に解決し、高砂市内におけるフードデザートの課題の軽減することを目指す。

## 1-2. 提案するアイデアの内容（5W1H）

○What（具体的なサービス、活動、新規性）

高砂市が高齢者に配布しているタクシー券を地域の老人会を中心に共同利用することでグループによるショッピング活動の促進を図る。この提案の狙いは、すでに高砂市が配布しているタクシー券を共同利用してもらうことで、自家用車を持たない市民や免許を返納した市民の生鮮食料品などの日用品の購入機会を拡大させることを目標としている。1枚のタクシー券で複数人が高砂市内の商業施設に到着できるようにすることにより、高砂市内でのグループ買い出しを促し、個人間の結束を強くすることで孤独やフレイルの予防に繋げる。

この案を実現させる仕組みとして、福祉課や老人会を中心に高齢者に呼びかけ、グループを作りやすいよう場の形成を支援する。その後買い物お出かけグループになった高齢者は買い物を集団で行う際にタクシーのドライバーにタクシー券を渡す。タクシードライバーは会社に乗車区間などの報告を事後的に本社経理部門に行い、タクシー会社の事務部門が月単位で集計した結果をデジタルデータとして市に提出する。タクシー券をデジタルサービスとしてスマートフォンなどで利用できるようにすることも検討したが、本提案の主なターゲットは高齢者であることから高齢者の市民にとって最も身近な手段であり、現行でも利用されている紙媒体のタクシー券を利用することとした。

この提案は高砂市内の高齢者を中心としたフードデザートの課題解決に主眼をおいているが、市内の商業活性化をも視野に入れている。このとき、市内商業活性化のため市内限定乗車とする方法も考えられたが、公募制で市内事業者のクーポンチラシをタクシー内で配ることで高砂市内であれば安価に購入できるという消費者向けのインセンティブを提供することにより、買い物お出かけグループの消費支出を市内に留めることができると考える。また、タクシー会社との意見交換会を行い、高齢者の方とのトラブルを防ぐよう、グループを組む際にあらかじめ介護ヘルパーの同乗、または高砂市地域包括支援センターとの連携により対策、またタクシー券の様式を現状高齢者と障がい者用のタクシー券がそれぞれ異なるため様式を統一させ、市役所とタクシー事業者の金銭的、労務的負担を減らすというアイデアも検討を行った。

「将来的」には買い物お出かけグループに属する市民限定の新制度として市内限定の買い物サービスなどを策定することで、買い物お出かけグループに属する市民の増加を図る。または特区制度を利用した「やぶくる」のような市民ボランティアベースの移動サービスを並行して行うことで地域住民の相互

扶助とソーシャルキャピタルの醸成につながる事が考えられる。また、この提案によって高砂市の地域商業と地域社会の双方の活性化につなげ、現状で事業継承意欲を失っている商業者に希望を与えることができる。さらに、現状で乗降客数が多いのにも関わらず商業環境としての魅力に欠ける荒井駅周辺の再開発を含めた商業環境の整備も将来の課題として考えたい。

○Who（実施者、組織）

市主体で推進し、実施者として老人会と商業施設、タクシー会社がある。将来的に地域住民のボランティアによる自家用車を活用した送迎サービスの実現。

参照 やぶくる (<https://project.nikkeibp.co.jp/atclppp/PPP/052500076/032500044/>)

○Who（対象者、受益者（主体的関与も含む））

高砂、北浜、中筋小学校区に住むフードデザート問題に直面している車を持たない高齢者世帯。

○When（実施時期、頻度）

タクシー券は来年度。需要や状況によりボランティアベースのモビリティサービスは2030年度を考えている。頻度は随時。

○Where（場所、対象地域）

高砂、北浜、中筋小学校区。（令和7年調査で買い物に苦勞すると回答している回答者比率の大きい地域）

○How（方法、アプローチ）

タクシー券の共同利用促進と事業者のタクシー内での市内商業者が提供する印刷物のクーポン配布。



高砂市役所・高砂商工会議所との定例会議の様子(月2回開催)



チーム準備会議(週一開催)

## アイデアの理由 (Why 2 ページ以内)

### 理由・根拠・データによる裏付け

#### 2-1. 理由のポイント

本提案は、高砂市が直面する「フードデザート」「高齢者の孤立」「商業の衰退」という三つの課題を、既存のタクシー券制度を活用したお買い物お出かけグループを構成し、高砂市内での購入促進により同時解決する点に独自性がある。単なる移動支援ではなく、人々のあいだの「つながり」を生み出すことで、高砂市内でのソーシャルキャピタルの醸成を図るとともに、高齢者の外出意欲を高め、地域商業の活性化だけでなく高齢者の健康維持を両立させる。既存資源を最大限活用するために導入ハードルが低く、高齢者・商業者 (+ タクシー業者) ・行政の全員が利益を得るトリプルウィン構造により持続可能性が高いと考えられる。また、全国的に高齢化と人口減少が加速している状況にあり、実証実験による効果検証を経て、全国の類似課題を抱える地方都市への横展開が可能である。

#### 2-2. 根拠と裏付け

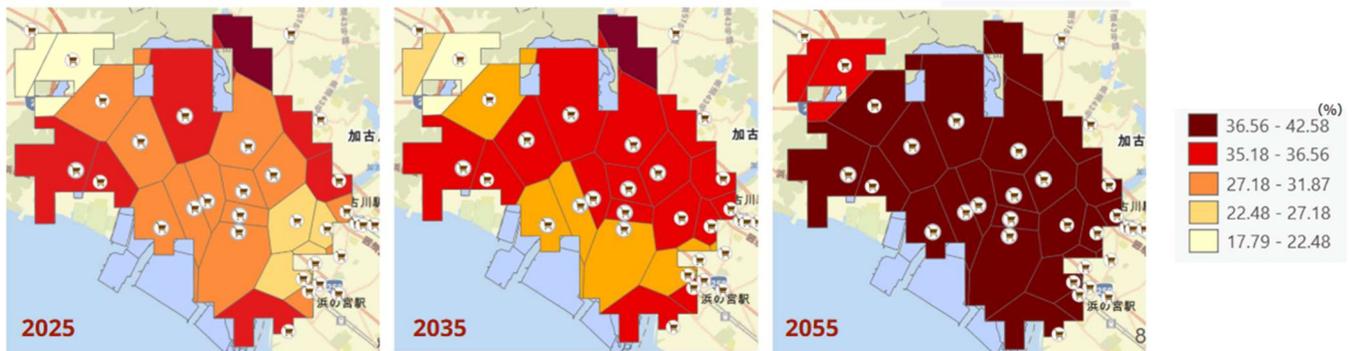


図1 年代ごとの各スーパーの商圏内高齢化率推計の主題図

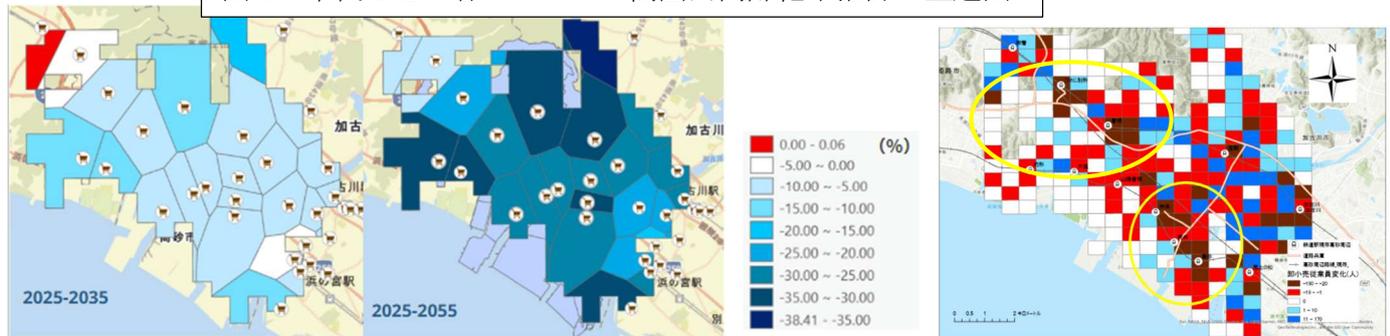


図2 年代ごとの各スーパーの商圏内人口減少率推移の主題図

図3 2016年から2024年の卸・小売従業員数変化の主題図

#### 【商圏内の人口減少と高齢化の進行】図1.2参照

国土数値情報ダウンロードサービスで提供されている250mメッシュ別将来推計人口データ (R6国政局推計) を利用した結果、高砂市では2035年に高齢化率が35%に達し、2055年には40%を超えることが予測された。同時に商圏人口は10年で約10%、30年で約30%減少する見込みである。

この「人口減少×高齢化」のダブルパンチによって各商業施設についてもそれぞれの商圏顧客減少に繋がり、その結果店舗が高砂市内の現在の営業地点から撤退してしまうことが予想され、その結果さらなる買い物困難を招くという、悪循環が生じる可能性が極めて高い。

#### 【従業員数の減少】図3参照

特に、高砂駅以南の旧銀座商店街周辺の高砂小学校区では従業員数が顕著に減少しており、事業継承意識の希薄化によって地域固有の商業文化が消失の危機に瀕している。

### 【支援優先地区の特定】

本事業の必要性は、令和7年高砂市商業調査結果とオープンデータを活用したGIS分析によって裏付けられている。また、分析には独自に開発した支援優先度スコア指標を用いた。

『支援優先度スコア = 人口的支援優先度 × 最近スーパー距離 RANK × (1 + 車非所有推定)』

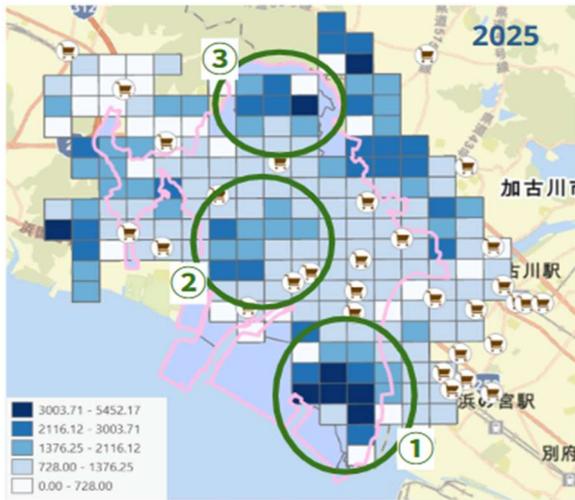


図4 人口的支援優先度スコアの主題図

✓ 利用指標

人口的支援優先度 × 最近スーパー距離RANK × (1 + 車非所有推定)

【人口的支援優先度】  
= log(2025年高齢者人口+1) × 2025年高齢者率 × (1 - 2025-2035年総人口減少率)

【最近スーパー距離RANK】  
各メッシュから最も近いスーパーまでの距離をランク付け(数値が大きいほどスーパーまで遠い)  
~500m→1 / 500~1000m→2 / 1000~1500m→3 / 1500m→4

【車非所持推定】  
2020年個人経営体基幹的農業従事者数 × 0 (-Aとする)+  
2025年高齢者率(A除く) × 0.4 + (1 - 2025年高齢者率 (A除く)) × 0.2

その結果、①高砂駅以南②山陽曾根駅周辺③高砂市北部の、数値が高い地域で「高齢者支援必要性が高く、スーパーまでの距離が遠く、自動車を所有していない人が多く住む」買い物上困難を抱える人が多いと判断できる。②周辺では今後「トライアル」が開店する見込みのため、①高砂駅以南の支援必要性が必須であることが読み取れる。高砂駅以南はかつて市街地の中核を担っていた銀座商店街があったが、現在は高齢化率が上昇し、買い物における支援の必要性が高くなっている。

### 【それぞれの地区の買い物満足度】

この主題図は、統計解析ソフトウェア JMP と「令和7年度の消費者調査」の結果を基に ArcGIS を用いて作成したものである。市内の10小学校区における「訪問販売が生活に与える影響の大きさ」を「1. 大変良くなると思う, 2. 少し良くなると思う, 3. あまり変わらないと思う, 4. 全く変わらないと思う」の四段階で調査し、1, 2の選択の比率を示している。特に、高砂, 北浜, 中筋の3小学校区では良くなると思っている人が65%を超えているのに対して米田, 米田西小学校区では50%前半と差異が見られる。このような結果となっているのは、小学校区ごとの購買環境の差が背景にあることが容易に想定される。

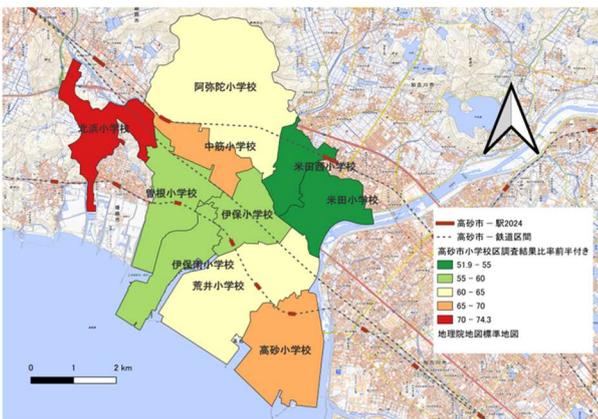


図4 小学校区ごとの訪問販売があると買い物が楽になると思う人の比率の主題図

### 【まとめ】

上記の分析結果から、高齢化が進み、商業機能が衰退している高砂駅以南エリアで買い物環境への不満が特に高く移動手段を持たない高齢者が多いことが明確に示された。したがって、「タクシー券を活用した買い物難民への購入支援」は、この地域の実情に即した提案であるといえ、①移動困難（物理的課題）、②高齢者孤立（心理的課題）、③商業衰退（地域的課題）を同時に解決する、最も効果的かつ実現可能な方策であるといえる。また、北浜、中筋小学校区についても訪問販売が生活に与える影響が良いと考える割合が高いため訪問販売と重ねて「タクシー券を活用した買い物難民への購入支援」も進めていくべきだと考える

### 【データの参考・参照元】

- 総務省統計局統計地理情報システム 経済センサス活動調査 2021・基礎調査 2016・農林センサス 2020・国勢調査 2020
- 国土数値情報ダウンロードサイト 将来推計人口4次メッシュ・小学校区・重要物流道路・鉄道駅・線路乗降客数
- NTTタウンページ スーパーマーケット所在地データ
- 令和元年度高砂市消費者調査結果
- 令和7年度高砂市消費者調査結果

## 実現までの流れ（How）

### 3-1. 実現する主体

#### 1. タクシー券制度の共同利用によるお買い物お出かけグループの高砂市内での購入促進

市役所、老人会、スーパー、タクシー会社、高砂商工会議所の5団体が連携し、高砂市民・高砂市の企業市民・高砂市で構成されるコンソーシアムが実施する。

- ・市役所：各ステークホルダーと連携・調整を行う役割、タクシー券の配布事業（既存事業）
- ・タクシー会社：グループ購入に関わる実際的手段の提供
- ・商業者：販促のためタクシー会社にクーポンを配布とその準備
- ・老人会：高齢者のグループ購入を促すための地域の高齢者の取りまとめ
- ・兵庫県立大学：タクシー券の共同利用に関するシステムデザイン（現在タクシー事業者2社と調整中）

#### 2. 荒井駅再開発事業に伴う商業の事業継承・新規参入の促進

- ・山陽電鉄：再開発事業への協力、高架化の主体
- ・国土交通省近畿地方整備局：高架化・再開発に関する補助金、認可
- ・兵庫県土整備部：道路関係の整備
- ・高砂市役所都市計画部門・産業振興課：補助金等の支援
- ・高砂商工会議所：再開発の取りまとめ
- ・地域の商工業者：再開発地への出店
- ・兵庫県立大学：商業施設の誘致に関するアイデアの提案

### 3-2. 必要な資源と調達方法

#### 1. タクシー券制度の共同利用によるお買い物お出かけグループによる高砂市内での購入促進

ヒト：必要人材・スキルと確保方法

市役所：コンソーシアムの取りまとめ、タクシー券の予算案作成、介護ヘルパー

商工会議所：商工会議所の職員

地域の商工業者：タクシー券を用いた来店用クーポン

老人会：高齢者の取りまとめ

兵庫県立大学：データ分析、アイデア創出

モノ：必要機材・設備・場所と調達方法

市役所：既存の制度、設備、タクシー券のシステム構築

タクシー会社：タクシー券のシステム構築（兵庫県立大学が原案提示済）

カネ：資金規模と調達方法（補助金・寄付・収益など）

タクシー券：既存の配布方法、お買い物お出かけグループのためのタクシー券需要の

高まりで新制度による補助金

既存の未活用資源を最大限用いて取り組む

#### 2. 荒井駅再開発事業に伴う商業の事業継承・新規参入の促進

ヒト：必要人材・スキルと確保方法

市役所：再開発、商工振興関係予算の策定、各部門の人材

商工会議所：商工会議所の職員

地域の商工業者：自社商品・サービス

兵庫県立大学：データ分析、アイデア創出

モノ：必要機材・設備・場所と調達方法

市役所：既存の制度、設備

山陽電鉄：荒井駅

カネ：資金規模と調達方法（補助金・寄付・収益など）

国・県・市の補助金、高架化に関する国の補助金

### 3-3. 実現までのプロセスと時間軸

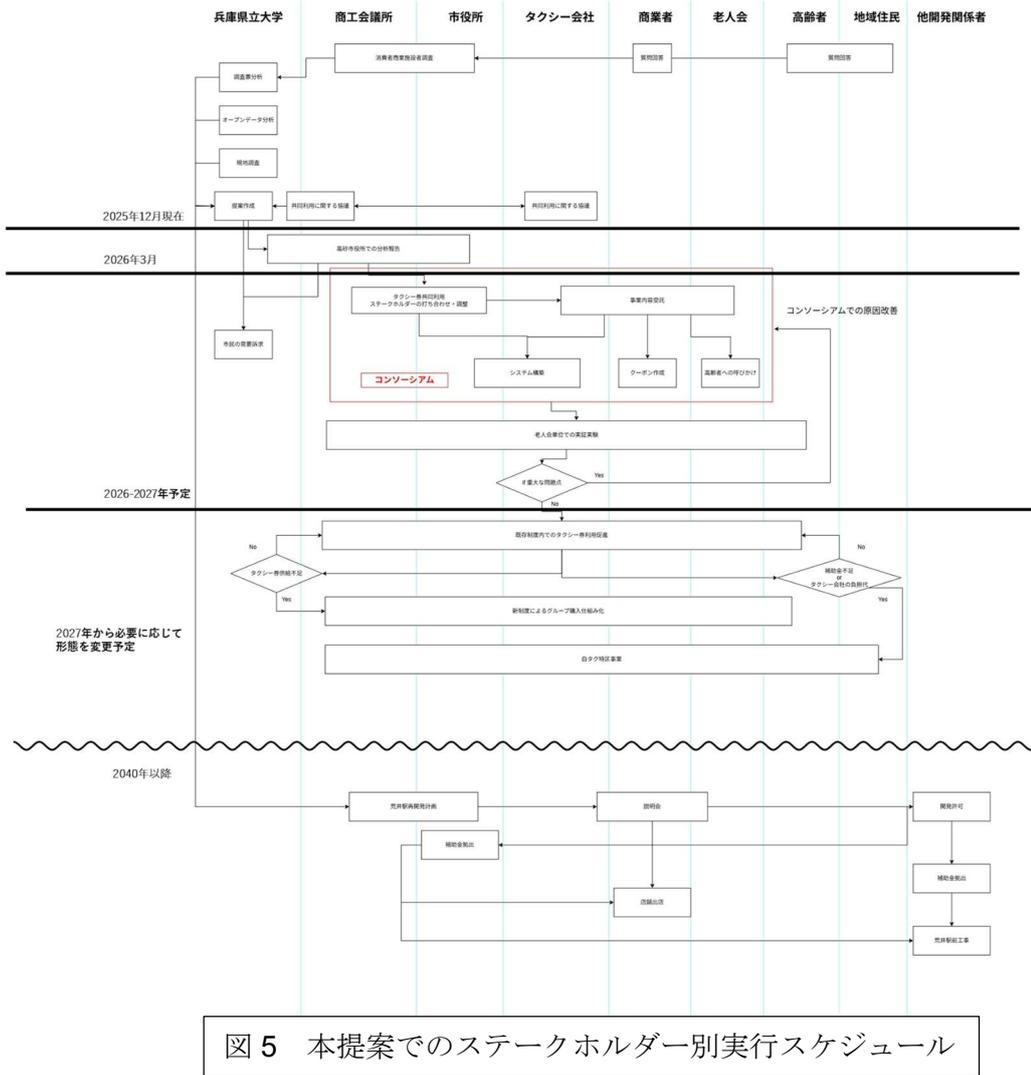


図5 本提案でのステークホルダー別実行スケジュール

### (任意) 3-4. 想定リスクとその対応策

荒井駅再開発は現段階で長期のビジョンとなるため既存制度でのタクシー券の共同利用によるグループ購入促進に関するリスクについて言及。

(例)・主体：リスク内容→回避、対策

- ・市役所：制度、予算整備→実証実験をもとにした結果による予測
- ・タクシー会社：配車計画の難化→老人会との連携や配車日時の設定
- ・商業者：特色ある個人商店の未集積により広領域サービスを個人商店同士で補いきれない可能性→継承に伴う移転による集積、荒井駅付近での集積
- ・高齢者：タクシー券の用途が限定される可能性→制度を分化しグループ購入と他の用途で配布方法分担
- ・老人会：高齢者の取りまとめの負担増加→地域福祉課との共同でノウハウの蓄積、負担減
- ・将来的に荒井駅の再開発を行う場合、山陽電鉄が工事保険に加入することでリスクを補う。